

話すこと・聞くこと

日常生活の話すこと・聞くことには必ず相手があります。国語の授業においても、相手を設定し、何のために、どのように伝え、それがどのように受け止められたかなどをはっきりと意識させた活動を展開しましょう。



幼児期

はっきりとした返事や場に応じた声の大きさなどを学習しています。言葉遊びや誕生会の司会、歌などことばへの興味や関心を高める活動が仕組みられ、喜んで話したり、聞いたりする態度や感覚を養いながら小学校へと向かっています。

小学校

1年

話す

主語・述語をはっきりと
身近なことを
順序よく

話す事柄を整理して
中心をはっきりさせて

意図をはっきりさせて
資料を使い、組立てを工夫して

ふさわしい話題を選んで

論理的構成を
考えて

聞く

大事なことを
落とさず
5W1Hに気をつけて

話題をとらえながら
話の中心に気をつけて

意図をつかみながら

話し手の意図を考えながら

見方や考え方を整理して

話し合う

身近な事柄を
話題に沿って

話し合いのルールに従って
理由をつけて

立場・意図をはっきりさせて

話題や方向をとらえて

共通点・相違点を見極めて

言語活動例

- あいさつ
- 絵を見て話す
- 本の紹介
- 体験を紹介しあう
- グループでの話し合い
- 1分間スピーチ
- インタビュー
- 進行計画を立てた学級会
- ニュース番組作り
- ポスターセッション
- リリーススピーチ
- 資料を使った説明
- ショーアンドテル
- フリートーキング
- ブレインストーミング
- バズセッション
- ディベート
- 研究発表会・講演
- シンポジウム
- プレゼンテーション
- パネルディスカッション

事実と意見を区別して

中学校

1年

卒業後

相手の立場や考え方に立つてことばを受け止め、自分の考えや思いを適切に伝えるなど、目的や必要に応じた対話や話し合いができる。